■今月の特選句

2013年8月号

色うすく効き目無さそうサングラス　笠　政人

色うすきサングラスは、ドスの利いた面構えの人が使うとよろしい。色の濃いサングラスは、俺が銀行強盗に行くときに使わせてもらうぜ。

脱臼も骨折もあり梅雨の傘　久我正明

脱臼がこの句の勝負どころ。脱臼はどの部分などと考えずに雰囲気で理解するのがいいね。「その傘でちゃんばらするや梅雨晴間」。

富士山を踏み固めるかや山開き　西をさむ

「富士山やお山開きで肩が凝り」ですね。「夏の富士訪ね雑踏の迷子に」ということですね。世界遺産登録の前に行っておくべきでした。

富士山をみたくて急ぐ蝸牛　山本　賜

説得力のある嘘ですね。角ふりかざして息せき切って急ぐかたつむりが見えてきます。急がねば日が暮れるぞよかたつむり。

サングラス余計目立つてしまひたる　加藤　賢

「サングラスみんなですれば目立たない」「マスクまたみんなですれば目立たない」「サングラスいつもしてればば目立たない―タモリ」

サングラスかけて小心際立てり　金澤　健

「サングラス外し組長凄みけり」ということもあるわけで、「ワル」が優しく見せるのに必要な小道具。だから、サングラス使いなさいよ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

浮世繪で浮世を煽ぐ団扇かな　藤森荘吉
・・・浮かぬ顔して煩悩のヒト

もらひたる欠伸をかくす扇かな　原田　曄
・・・もらひたるものその扇また

みつばちがくすぐったので種が付く　齋藤八兵衛
・・・くすぐつたのは性感帯か

台風に踏ん張る古木の力瘤　高橋素子
・・・年寄りの冷や水にやあらむ

被りもの浮かせてあほぐ秋扇　永島菫玉
・・・とればいいのに横着なヒト

落し文落としどころを知るらしく　下嶋四万歩
・・・これは落とされ所と言ふべし

ネクタイを鵜匠のやうに給料日　柳　紅生
・・・それが最近クールビズだと

酷暑なり柱時計の実直さ　三塚不二
・・・さぼるてふ用語知らぬ報いか

マスカラの睫にまくなぎ纏ひつき　麻生やよひ
・・・「ま」の韻ふんで面白い句よ

穴あきの紫蘇の葉なめくじさんの分　上山美穂
・・・先祖伝来日本のハーブ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

薔薇に棘なければバラの退屈に　工藤泰子
・・・美人にもまた言えることかも

扇風機超過勤務に音をあげる　小林英昭
・・・止めれば暇をもてあますのに

なにもかも隠したつもりサングラス　白井道義
・・・下心てふ奴も無露見か

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

	古妻になりて変貌七変化	青木輝子
	川明に浮かれる夫を邪険にし	青木輝子
【佳作】	お節介焼いて疎まれ蚊帳の外	青木輝子
	山猿と鎧袖一触岩魚釣	青山桂一
【佳作】	内からの痛みに耐へし螢かな	青山桂一
	源平のいづこの里の螢やと	青山桂一
	雨浴びてアンチエイジングの七変化	秋月裕子
【佳作】	ぶつくさ言ふて散水の管を巻く	秋月裕子
	噴水のしぶきのかかる握り飯	秋月裕子
	電波の日こだま伝播すエコエコと	麻生やよひ
【佳作】	叩くたび蠅の逃げ足速くなり	麻生やよひ
	なにくそと意地張っている熱帯夜	足立淑子
	年金を倍にしますと黄金虫	足立淑子
【佳作】	心太で満腹といういい日だね	足立淑子
	アマゾンもジャングルもない熱帯夜	有冨洋二
	鰻屋の匂いで知らす風の向き	有冨洋二
【佳作】	我こそは天然物ぞ鮎跳ねる	有冨洋二
	鬼の霍乱などといはれてしまひけり	有吉堅二
	買ふ気などなき風鈴を吹いてみる	有吉堅二
【佳作】	名水を金魚に分かつ独り者	有吉堅二
	蟻寄りて宇宙旅行の計ならん	粟倉健二
【佳作】	店頭の四つ切スイカを眼で舐める	粟倉健二
	七夕や孫の枕の星模様	粟倉健二
【佳作】	声先きに子等が駆けくる夕立かな	飯塚ひろし
	茄子漬の色艶褒めて戻りけり	飯塚ひろし
	神の世のその昔より草茂る	飯塚ひろし
	氷店訪ねてみればとうにやめ	井口夏子
	雷雨やブルドックの皺の揺れ	井口夏子
【佳作】	青簾噂話はほどほどに	井口夏子
	夜目遠目美女に尻尾のありやなしや	池田亮二
【佳作】	かたつむりの恋路ははるか十センチ	池田亮二

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	持ちて行き持たずに帰るひからかさ	石川節子
	蚊に激怒する心根の狭さかな	石川節子
	扇風機上手に母を眠らしぬ	板倉肱泉
【佳作】	流星の月刺さっては消えにけり	板倉肱泉
	梅雨明やあんぱん買って兄見舞ふ	板倉肱泉
	猫よりも昼寝の好きな妻傘寿	伊地知寛
	墓掃除オヤジは薩摩母会津	伊地知寛
【佳作】	他人の目を避けて木陰に茗荷の子	伊地知寛
	栗の花知らずに通る鼻詰まり	伊藤浩睦
	木曾長良合わせて曾良に夏の雲	伊藤浩睦
【佳作】	父の日や第二乙種の父なれど	伊藤浩睦
	子供の日親子どんぶり注文す	稲沢進一
	ソーダ水因数分解まだ解けず	稲沢進一
【佳作】	トレーナーで一日暮れたり終戦日	稲沢進一
【佳作】	如雨露手に蚊の一刺しに後手となる	井野ひろみ
	夫の言ふ「好いてくれるな蚊の彼女」	井野ひろみ
	七夕や良縁あれと親の書く	井野ひろみ
【佳作】	はたた神マイカーに我を閉じ込めぬ	今城夏枝
	甚平着し心を軽くなりにける	今城夏枝
	炎天やあの人のこゑ遠くなる	今城夏枝
	三猿の歩きスマホも夏姿	入江澄泉
【佳作】	家庭内野党の妻やえごの花	入江澄泉
	かたつむりヌードになりて塩まかれ	入江澄泉
【佳作】	ゴム長をはき六月の花嫁よ	上山美穂
	マンションの口笛ヘビを誘ひ出す	上山美穂
	盆の墓花に添へたる缶ビール	氏家頼一
【佳作】	素通りの人に叩かる大西瓜	氏家頼一
	白粉花の咲けば出かける濃化粧	氏家頼一
	鰻重は年に一度の余生かな	越前春生
【佳作】	夫婦してストロー鳴らすソーダ水	越前春生
	水打ちしあと一日の長きこと	越前春生
	夕凪に屋上ガーデン活気づく	奥脇弘久
【佳作】	石段のまだある先の油照り	奥脇弘久

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	花合歓やちと野放途と疎まられ	奥脇弘久
【佳作】	ともすれば空念仏となる溽暑	笠　政人
	雨蛙喉を限りに雨を呼ぶ	笠　政人
	はんげんぱつ幼稚園児の七夕に	加藤澄子
	夏みかんつつ走りけりバスの中	加藤澄子
【佳作】	視界ゼロ入道雲の白に居る	加藤澄子
【佳作】	羅を着て女房が嘘をつく	加藤　賢
	近頃の交番冷房利いてをり	加藤　賢
	紫陽花や多芸多才の我が主宰	門屋　定
【佳作】	古民家や子沢山てふ燕の子	門屋　定
	七月や来るな来るなと古希になり	門屋　定
【佳作】	修行僧片蔭を行き迷ひなし	金澤　健
	ナイターの帰趨知れたり応援歌	金澤　健
【佳作】	子雀やおねだり上手な子も居りぬ	川島智子
	昨日今日と葬儀婚礼梅雨の中	川島智子
	花も木も花木の王よ泰山木	川島智子
	客待ちの夜店のあるじ油売る	菅野あたる
【佳作】	駅前の演説長き日の盛り	菅野あたる
	声出してこぼす欠伸や明易し	菅野あたる
【佳作】	紫陽花の四角三角丸となる	久我正明
	山道をバックで返る梅雨の入り	久我正明
【佳作】	あぢさゐに雨音著き密議かな	工藤泰子
	プラチナも黄金も鯉夏に入る	工藤泰子
	双子故世に出て悲しさくらんぼ	黒田忠一
【佳作】	網の目を潜り抜け来し心太	黒田忠一
	尺取りに測られ吾は五尺無し	小泉花子
	短夜や中途半端な生命線	小泉花子
【佳作】	靴洗い犬も干されて梅雨晴れ間	小泉花子
【佳作】	狙はれてゐる爺ちやんの柏餅	小林英昭
	丑寅はさけて出てこい蝉の穴	小林英昭
【佳作】	ポケットに太陽入れて持ち歩く	齋藤八兵衛

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	古稀となり幸せ追加注文す	齋藤八兵衛
【佳作】	国会てふ田圃にあまた余り苗	酒井鹿洋
	鳩の巣を追われて言動無責任	酒井鹿洋
	季語入れて五七五のほ句のどか	酒井鹿洋
【佳作】	紫陽花の移り気に似る猫魂	佐藤義子
	手前床屋どこをカット変らない	佐藤義子
	ビール腹隠して飲むよ今夜もか	佐藤義子
	巳年半竜頭蛇尾の俺が夏	柴田止揚
	いくさにも平和も的よ四季の富士	柴田止揚
【佳作】	夏下校馬糞投げ合ふ昔あり	柴田止揚
【佳作】	しつこきは愛のかたちの藪蚊かな	下嶋四万歩
	塵芥まさかの滝に出逢ひたり	下嶋四万歩
	筍は十二単を素っ裸	壽命秀次
【佳作】	雨蛙井戸端会議に入り来る	壽命秀次
	野に溶けて黙（だん）まり決める落雲雀	壽命秀次
【佳作】	乱高下アベノミクスや雷走る	白井道義
	水中花ぽつんと置いて引き籠る	白井道義
	人参とじゃが芋の相性に割りこみたい	鈴木和枝
【佳作】	紫陽花の球内緒内緒が入っている	鈴木和枝
	三日続きの雨　おたまじゃくしになれるかな	鈴木和枝
	炎天日コピーをつけるプレゼンで	鈴木哲也
	髪洗ひネクタイしめる身だしなみ	鈴木哲也
【佳作】	風薫り仕入れの時はスニーカー	鈴木哲也
	空蝉を集めて最中カラ話	泰田成人
	この辺り蛍の尻と屋台狩	泰田成人
【佳作】	縄暖簾くぐりし客は逆螢	泰田成人
	携帯もマナーモードで昼寝かな	髙田敏男
	半夏生蛸に厄難有りにけり	髙田敏男
【佳作】	我がいびき聞いて目覚める昼寝かな	髙田敏男
	バーベキュー男はいいな大裸	高橋きのこ
【佳作】	老人サロンコロンとメロンひとつ	高橋きのこ
	蒲焼のタレ売り切れて土用かな	高橋きのこ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	燕尾服若い燕は仮縫ひで	高橋素子
【佳作】	逃してしまひ月下美人との逢瀬	高橋素子
	鮹の目に異形と写るわが身かな	田所國威
	水着きて隠すところは何もなし	田所國威
【佳作】	サングラスああマッカーサーに似ていたり	田所國威
	夕立や怒りの魔女の歌聞こゆ	田中章子
【佳作】	かき氷山々くづし征服す	田中章子
	天道虫たがひの点を数へ合ひ	田中章子
	なんとまあ入梅の早さなりけり	田中　勇
	あぢさゐの水の精宿らすなるや	田中　勇
【佳作】	七変化我れ変身願望あり	田中　勇
	浴衣の裾ひるがへしゐる白き足	田中早苗
【佳作】	青田中忍者となりて鷺の足	田中早苗
	流れ星君もいぢめに遭ひたるか	田中早苗
	盗み酒いまは見逃す油虫	田村米生
【佳作】	蝿叩持てば形相変はる妻	田村米生
	雨乞ひに鳴き疲れたる雨蛙	田村米生
	無念やな浄瑠璃本に雲母虫	都吐夢
	光頭や夕立ぽつり又ぽつり	都吐夢
【佳作】	ステテコや七十にして四十肩	都吐夢
	百五十九歳夫婦更衣	飛田正勝
	引つ手繰り父が子を撃つ水鉄砲	飛田正勝
【佳作】	この傷が原発これが原爆忌	飛田正勝
【佳作】	三猿に変身したる生身魂	永島董玉
	新豆腐買はむと喇叭呼びとめて	永島董玉
	山頭火真似てとぼとぼ暑気中り	西をさむ
【佳作】	あめんぼの淡海の国を抓み上ぐ	西をさむ
	ビール党季語を否決し年中飲む	花岡直樹
【佳作】	五月雨がシャイで予感の水不足	花岡直樹
	縁側でビキニの彼女と睡眠グ(good!)	花岡直樹
	羅や臀だうだうの自己主張	原田　曄
【佳作】	忘却は記憶にまさり昼寝覚	原田　曄

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	良妻の得意料理や冷奴	ひがし愛
	蛇口より七色の虹飛び出せり	ひがし愛
【佳作】	富士山に裏と表や五月富士	ひがし愛
	残金の処置に試案の梅雨出水	久松久子
【佳作】	次の世に繋がつてゆくお花畑	久松久子
	蚊帳畳み教はり嫁に来てみしが	久松久子
【佳作】	棘あるは恐がりゆえの夏薊	日根野聖子
	遠慮てふことを知らざり夏の草	日根野聖子
	紫陽花のくたびれきつて六月尽	日根野聖子
	夾竹桃家の主の人嫌ひ	広瀬雅幸
【佳作】	夏の海泰然となる太鼓腹	広瀬雅幸
	噴水の子どもを遊び相手とし	広瀬雅幸
	蟇口に硬貨収まり昼寝かな	藤岡蒼樹
	鶏の喉ごくり高音やラムネ玉	藤岡蒼樹
【佳作】	おつとつと唇寄す父の日茶碗酒	藤岡蒼樹
【佳作】	猛暑故しらばつくれてゐる私	藤森荘吉
	雷鳴や私いささかへそ曲り	藤森荘吉
【佳作】	音もなく色を濃くして青田かな	藤原セツ子
	梅雨晴れの緑の綴れ織に立つ	藤原セツ子
	古都を訪ひ茅花流しの風の中	藤原セツ子
【佳作】	光の塊この谷の恋ぼたる	松井寿子
	登山道私の後ろ足音なく	松井寿子
	水芭蕉鹿の子模様の苞立てる	松井寿子
【佳作】	独居老人慰めに来しかたつむり	松井まさし
	手練手管のあらはを覗く夏のれん	松井まさし
	素裸のマネキンと居るサングラス	松井まさし
	滝壺のけものの如く口をあけ	松尾軍治
	老大工足かろがろと三尺寝	松尾軍治
【佳作】	おつぱいのはみ出すやうな水着買ふ	松尾軍治
【佳作】	富士も笑む三保松原梅雨晴れり	丸山紘一
	生き難き憂き世洗ふか梅雨暴る	丸山紘一
	彼の国もバブル果つらむ雲灼くる	丸山紘一
	無防備に密かに輪廻蟬脱皮	三塚不二

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	張りめぐる根っこの悲鳴登山道	三塚不二
【佳作】	やはらかきお尻丸だし庭ぷーる	三橋百笑
	寝ころべば這ひ這ひのくる帰省中	三橋百笑
	逃げられぬ胡瓜なめくじの意のままや	三橋百笑
【佳作】	蟻地獄営み許す五輪塔	宮森　輝
	向日葵の陽に背く花ありにけり	宮森　輝
	余り苗まとめて束ね田の神に	宮森　輝
	夏草や人は突然ゐなくなる	百千草
	それがしの終の棲家ぞ源五郎	百千草
【佳作】	雨乞ひのしかと叶ひし大出水	百千草
	さうめんの喉越し判る茹で加減	森岡香代子
【佳作】	とりあえず一声かかる生ビール	森岡香代子
	冷奴なぐさめられる薬味かな	森岡香代子
	移ろえるあじ彩めでる梅雨晴れ間	森　要
【佳作】	雨の中世界遺産を銭湯で	森　要
	犬連れてさぞ暑かろう西郷どん	森　要
【佳作】	滑稽を詠んでこの世に端居かな	八木　健
	工作の指のべたべた夏休み	八木　健
	粘着のリボンに迂闊悔む蠅	八木　健
	腹ぼての栄養過多や風死せり	八洲忙閑
	紙魚つぶす俳句手帳に染みのつく	八洲忙閑
【佳作】	七月場所いつもの女（ひと）のいつもの席	八洲忙閑
	大宇宙手玉にとりて天花粉	柳　紅生
【佳作】	イケメンも金魚に軽く振られけり	柳　紅生
	夕涼みニヤーンと寄り添う子猫かな	柳澤京子
	走り来る蝶の羽欠く子猫かな	柳澤京子
【佳作】	夏の旅仏頂面のクリスチャン	柳澤京子
	ひとつ薔薇ふたり眺むるひとつ時	山下正純
【佳作】	空梅雨や台風の来て立つ瀬なし	山下正純
	拍手喝采アクロバツトの蚊を追ひて	山下正純
【佳作】	溜め水の鴉の行水すぐ終はる	山本けい子
	目元涼やか浴衣着る留学生	山本けい子
	父の日の器はハートさくらんぼ	山本けい子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	渓谷におはぐろ忍者の如きかな	山本　賜
【佳作】	ぼうたんの孔雀になつてゐるつもり	山本　賜
【佳作】	従へる兵卒もなく青大将	横山喜三郎
	二百キロ来て葉桜へバス降りる	横山喜三郎
	ふぐりをば縮み上がらせ土用波	横山喜三郎
【佳作】	清貧に生きて悔なし冷奴	渡辺さだを
	梔子を活けて手水の匂ひ消し	渡辺さだを
	かぶりつき顎の外れし水瓜かな	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。